

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103338		
法人名	有限会社 すみれの里		
事業所名	グループホームすみれの里		
所在地	長崎県長崎市富士見町15番5号		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	平成31年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成31年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入退院はありましたが、昨年から引き続きメンバーは変わらず女性だけで構成されているグループホームです。長く入所されている方は13年目のご利用者様もあり、個性も能力も様々です。そのため、ひとり一人の状態に合わせた個別ケアを中心に「家庭的な雰囲気」を大切に支援しています。医療連携も保たれており、急変時にはどの職員も対応できるように日々勉強している施設です。季節の行事やお誕生日会、外出など、併設の小規模多機能型居宅介護と合同で行い、ご利用者様の職員も交流を深め、お互いに良い刺激を与えながら生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は1ユニットで少人数での家庭的な一体感が窺える。職員間も気づきや意見などを言いやすい環境にある。中でもミニカンファレンスが習慣となっており、記録に残しケアの向上に繋げている。起床や就寝、朝食など決まった時間は特に設けず、本人の状態に合った声掛けを行いながら利用者本位の支援に努めている。食事においては、宅配業者のバランス良い献立と手作りの料理を組み合わせ提供している他、出前や誕生日ケーキ、ブラックコーヒーなどバリエーション豊かな食の楽しみを生み出している。馴染みの人との関係継続に向けた職員の取組みが功を奏し、今年に入り年賀状をきっかけに長い間疎遠であった兄弟と連絡を取ることができた事例がある。管理者は、新様式「介護支援計画書」を作成し、担当制により利用者の把握に努め朝礼で発表するなど、職員自らが参画できる工夫を行っている。理念「今、このときを大切に！」を基に、管理者を中心に職員が団結し、利用者の自分らしい暮らしを支援する事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りで理念を唱和し、理念に従って職務を行うように努力しています。新しく入った職員にもオリエンテーションなどを通して理念を理解してもらい、全員が同じ方向を向いて仕事をしていけるように心がけています。	職員は毎朝の申し送りで理念を唱和し、理解を深めている。管理者が積極的にミーティングなどで、理念について職員に問いかけ、職員自らが再確認する機会を作っている。新人職員にも管理者が理念について説明を行い、全職員が一丸となって理念の具現化に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、自治会便りが届いています。また、毎日の生活の中で、近隣の公園に出かけ、地域の方々と挨拶をしたり、声をかけておいただいています。	自治会に加入しており、日々、近隣の公園などで利用者は地域の人と挨拶を交わしている。職員は毎日事業所の前の歩道を含め近辺の清掃活動を行っている。敬老会では、新しく劇団やゴスペルなど地域ボランティアを招いている他、地元の人が、事業所の見学に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にご家族、自治会長、副会長に参加していただき、認知症について理解していただけるように話し合いをしたり、また、町内の老人クラブの取り組みにつて話をさせていただき、参考にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、自治会長、副会長、福祉総務課の方々に参加していただき、サービスの向上に生かしています。	会議は年6回併設の小規模多機能ホームと合同で開催している。議事録より事故報告など詳細を確認できる。行政担当課や自治会長等出席者と意見交換を行い、情報を得ながらサービス向上に活かしている。ただし、事業所の家族の参加がないため議事内容は小規模多機能ホームが多い。	家族には、推進会議の結果報告に留まるのではなく、出来る限り参加へ結びつくよう働きかけることが望まれる。家族の参加により、グループホームの支援内容に対する活発な意見交換を交わし、サービス向上に繋がることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	いろいろな相談をさせていただき、より良い生活を支援できるように連携を図っています。特に問題があった時は包括支援センターに出向き、相談し、アドバイスをいただいています。	市の職員が消防訓練の視察に訪れている他、介護相談員を受け入れている。また、市の担当者とは事業所の報告事項など、日頃から連絡を密に取っている。不明な点も電話や運営推進会議で顔を合わせた際に、その都度問い合わせ、情報を得ており、アドバイスを支援に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のミーティング、毎日の申し送り、ミニカンファレンス、勉強会などで、身体拘束について話し合い、周知徹底を図っています。	運営推進会議にて身体拘束廃止委員会を設置したことを報告し、3ヶ月に1度委員会を開いている。管理者は、職員に対して身体拘束事例を伝える他、資料を基に勉強会を行うと共に外部研修も受講し事業所内に周知を図っている。スピーチロックは都度注意し、拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じように、常に話し合う機会を持ち、日頃より、虐待や拘束について考え、お互いに注意しながら業務に進行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用しているご利用者様が二名いるので、それぞれの後見人の役割などを理解しながら支援しています。また、後見人の方の面会時にわからないことを相談したり、教えていただきスタッフのスキルアップに生かしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書や重要事項説明書を十分に説明し、理解して頂けるように努力しています。疑問や不安などがある場合はその都度お答えできるように努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しており、面会時には必ず、家族と話をするようにしています。意見などはカンファレンス、ミーティングなどに反映させていただき、十分に意向に沿えるよう努力しています。	苦情受付等は重要事項説明書を用いて契約時に説明している。家族の訪問は多く、週1回訪れる家族もいる。敬老会やクリスマス会には家族を招き利用者は一緒に時間を楽しんでいる。家族から出た要望や意見は、ミニカンファレンス時に職員間で情報を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミニカンファレンス、月1回のミーティングで意見を出してもらえりうような環境作りをしている。	毎月、グループホームと小規模多機能ホーム合同の会議を全職員出席して行っており、その後各事業所に分かれ会議する仕組みがある。半年に1回の個人面談は管理者が職員の思いを聞く機会となっており、また管理者は現場に入りその都度職員の考えを聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミニカンファレンスやミーティングを通して職員の意見がだせるような環境作りをしながら、業務上の問題点を話し合えるうにしている。また、処遇改善の自己評価も面談を行い、話し合える機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、職員それぞれが目標をたて、その目標が達成できるように努力すること。また、月1回の勉強会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ系列の事業所と意見を交換し、同業者との交流を図れるように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人と充分話し、情報を取り入れながら、そこで得た情報を職員間恵共有し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を聞く機会を多く作るように努力している。小さなことでも、電話などを利用しながら、より多くの情報をいただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、家族や職員と話し合い、素早く対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様を人生の先輩とする尊敬の気持ちを職員全体で共有しており、日々ふご利用者様から多くのことを学んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を交換しながら生活状況を把握して頂けるように努力しています。家族の思いを大切にしながら、面会時、また、ご家族との外出などがスムーズに行えるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの物を持参していただき、毎日の生活の中で、ご家族の写真を見たり、お話を聞いて関係が途切れないように努力している。ご家族との外出の支援。毎年ご利用者様のできる範囲で暑中見舞い、年賀状を送っています。	家族や親戚の訪問がある。近隣の人が見学に訪れた際、顔見知りだった利用者や挨拶する機会となっている。家族の協力を得て一泊で結婚式に出掛けたり、本人の米寿祝いでは化粧して家族と一緒に出掛けている。歩行可能な利用者や家族が散歩することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士、助け合ったり、支えあう場面が見られたり、おしゃべりに花が咲いている時があります。また、トラブルにならないよう見守りながら、椅子の配置に配慮したり、関係性の維持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要な時は連絡したり、関係が途切れないようにしている。町で偶然お会いした時もお互い気軽に挨拶しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を素早く察知し、検討している。表現が困難な場合は家族の話、生活歴、日々の生活の中から思いや希望を汲み取るように努めています。ご自分から思いを発信できる方が少ないため、毎日の生活の中で職員から話しかける場面を多く持ちように心がけています。	職員は日々の支援の中で、利用者への声掛けを重視しており、本人の思いを聞き取っている。難聴の場合は傍で語り掛け、リラックスして話せるよう配慮している。気の合う利用者同士で居室で寛いだり、起床時間は各利用者の習慣を尊重するなど、本人の意向を把握し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族などから情報を収集し、その人らしい生活を送っていただけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、個人記録、ミニカンファなどで、情報を共有するとともに、変化や状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り、個人記録、ミニカンファレンスなどで情報を共有し、状態の変化に気を付けている。ご家族からは面会時、また必要な時は電話を利用し、意見をいただきそれを介護計画に反映させています。	利用開始より暫定3ヶ月の計画を立て、その後短期3ヶ月・長期6ヶ月の介護計画を作成している。毎月カンファレンスにより全利用者の把握に努めている。職員は面会時や電話にて家族の希望を聞き取り、その都度同意を得ている。毎日の支援記録である個人記録は、ページ毎に計画の実施状況を確認し、ケアの統一を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やミニカンファレンスなどで、情報を共有している。また、毎日の生活の中で気軽に話し合いなら支援し、計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長崎独自のお祭りに出かけたり、季節の行事など工夫して行っています。また、毎日の生活の中での散歩やドライブ、お手伝いなど、一人一人の状態を考慮して行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育所のお宮日ごっこの見物。幼稚園の子供の訪問などがあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週連携医療機関より往診に来ていただき、急変時の対応もいただいています。また、病状に応じて他科への受診は事業所で行い、必要に応じて眼科、皮膚科などの往診もいただいています。	毎週協力医の往診がある。数名の利用者が入所後も継続したかかりつけ医の往診を受けている。皮膚科や眼科などの往診もある。また、他科受診時は事業所が通院同行し、特変時など家族に報告している。毎週系列事業所より看護師の訪問があり状況を伝えている。急変時や夜間帯などは協力医に連絡し指示を得、迅速に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師の訪問が週一度あり、ご利用者様の情報や気づきを伝え相談しています。また、管理者が看護師であるため、日常的にきめ細やかな相談に応じてもらえます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師、地域連携室と連絡を取り、退院後の支援に生かしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期の方針について指針を作成しており、入所時に同意を得ています。スタッフ全員が団結し、医師、看護師と連携を取り、家族にも協力していただきながら取り組んでいます。	重度化による指針を作成し、入所時家族に説明し同意を得ている。今年に入り直近で1件の看取り事例がある。管理者が中心となり、夜勤職員などの不安に配慮し、職員が団結して知識の共有を図っている。協力病院・訪問看護師との連携により、家族の希望に沿った支援を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、勉強会に参加して学び、それを実践につなげるように職員同士でスキルアップにつなげるように努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防火管理者の研修を受けた職員が作成する消防計画に基づき、毎月の避難訓練、年2回消防署立ち合いで総合避難訓練を行っています。今年度より自然災害についての訓練も実施していますが、近隣住人の参加には結びついていません。	毎月の消防訓練ではさまざまな想定内容が確認できる。年2回は消防署が立会い総合訓練を実施している。前回の課題から、地震発生時の対処方法や危険箇所を確認する訓練を実施している。ただし、自然災害のマニュアル作成や備蓄、持ち出し備品の整備、夜勤専従職員の訓練実施、及び地域の人の参加はこれからである。	月毎の計画に基づいた訓練や少人数対応マニュアルを活かすためにも、夜勤専従職員の実際を想定した訓練の実施が待たれる。また、自然災害のマニュアルの作成、備蓄類の整備及び訓練を推進会議と同日に開催するなど、地域の人の参加に繋がる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様を人生の先輩とする尊敬の気持ちを職員全体で共有している。トイレ、入浴時の誘導、声かけなどは一人ひとりの性格に合わせ、十分に配慮しています。	気になる言葉遣いに対しては、管理者がその場で即指導するよう心掛けている。職員とは、採用時守秘義務の誓約書を交わし、半年毎の個人面談においても遵守を徹底している。家族からは、個人情報について同意を得ている。個別ファイルは個人名が人目につかないよう保管しており、プライバシーへの配慮が確認できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、ご利用者様の思いを言動、行動などから理解し、代弁者となれるように努めています。また、職員同士、一番良い方法が見つかるように話し合います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の体調、様子を見ながらその人のペースで過ごしていただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の生活の中で化粧水をつけたり、髪を梳かしたりと女性らしい思いを忘れないように心がけています。また、コミュニケーションをかねてローションなどを用いたハンド、フットマッサージをしたり、雑誌を見ながらおしゃれの話などをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルやトレイを拭くなど出来る範囲でお手伝いをしていただいています。行事食の時のお刺身など、好みでない方にはほかの物を準備しています。また、時には外食したり、ちゃんぽんなどの出前を取って楽しんでいます。	昼食、夕食は配食業者の食事を利用している。利用者の希望に合わせて出前を利用しており、茶碗蒸しやチャンポンを食べて楽しんでいる。午前中はコーヒーと菓子を楽しむ他、誕生日に合わせ、ちらし寿司、刺身、ケーキを提供したり、正月やひな祭り、クリスマスの行事食も工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録に残し医師や看護師に報告し指示を受けています。食事量の少ないご利用者様にエンシュアリキッドのゼリーで栄養を補い、ペースト食の準備など。また、食事に戸惑いがあるご利用者様には盛り付けや食器の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは欠かさず行っています。自立している方には歯みがきセットを準備し、声かけを行い、その他の方には介助して口腔ケアを行っています。月に2回歯科検診に来ていただき、義歯の調整などもいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調、精神状態、排泄パターンを把握し、なるべく便器に座っていただけるようにトイレ誘導を行っています。	日中はトイレでの座位排泄を支援している。職員は利用者ごとの排泄チェック表を付けており、定期的に声掛けして誘導している。オムツ利用の場合は、本人のプライバシー保護に配慮し、居室のドアを閉めて交換している。現在ポータブルトイレの使用はなく、夜間もトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をし、3日排便がない時、また頻回に排便がある時など医師、看護師に相談し対応している。必要に応じて看護師による摘便も行っています。また、運動、水分補給、食事にもヨーグルトや果物などを摂っていただくようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴の中で、気分や体調を見て行っています。拒否があった時や汚染などがある時は入浴日に限らず入っていただいています。また、季節により、菖蒲湯やゆず湯など楽しんでいただいています。	現在は、週2回の入浴を支援している。入浴を拒否する場合は無理強いせず、職員を変えて声掛けするなど工夫している。入浴日以外は清拭している。改装して脱衣室、浴室を整備しており、利用者の好みの湯温に調整し、入浴を楽しめるよう努めている。ただし、入浴回数に検討の余地がある。	入浴は清潔保持だけでなく、本人のストレス軽減や職員と1対1で会話できる大切な時間でもある。入浴回数について検討、取り組みが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間は特に設けず、一人ひとりの様子や状態に応じて声かけしています。また、リネンは準備していますが、好みの布団や枕などがある場合はそれを使わせていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者様の薬について理解しており、薬が変更になった時は受診記録に記載し、ミニカンファなどで確認しています。また、服薬時には職員同士で確認することを習慣にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやおしぼり作りなどのお手伝い。ぬり絵、折り紙、書写、歌、風船バレー、卓球などご利用者様の希望、適正などを考慮し支援しています。また、コーヒーがお好きな方にはブラックでレギュラーコーヒーを飲んでいただき喜ばれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はご利用者様の体調を考慮しながら近所の公園へ散歩したり、外気浴をしています。季節や郷土の行事、ドライブ、外出に出かけています。また、ご家族とのドライブに出かけられる時の支援も行っています。	暖かい日は玄関先で外気浴したり、屋上で日光浴している。散歩は近くの公園やバス停まで出掛け、近所の人と挨拶している。通路から玄関までは急な坂であるため、数回休憩しながら移動している。初詣やおくんち、ランタンフェスティバルなどにも出掛け、家族とドライブに出掛ける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は一括して行っています。ただ、お金を持つことを要求するご利用者様もあり、以前ご利用者様同士でトラブルになったこともあり、ご家族様の了承を得て、金額を把握しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、電話をかけるお手伝いをしています。毎年、年賀状と暑中見舞いを職員がお手伝いしながら、ご利用者様の出来る範囲でお出しするようにしています。今年は年賀状がきっかけで長い間疎遠だったご兄弟と連絡をとることが出来ました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに室温時計、空気清浄機などを設置し、室温調整や換気に気を配っています。また、月ごとにご利用者様作成の壁面飾りなどで、季節を感じていただいています。	リビングの一角にあるキッチンからは、調理の音や匂いを感じることができる。傍らのテーブルでは雑誌を手に寛ぐ利用者の姿が窺える。職員は穏やかな声掛けを行いながら、洗濯物干などを支援している。食事中はテレビを消し、利用者が食事に集中できるよう配慮すると共に、毎朝、掃除と換気を行い心地よい空間となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにあるソファや椅子の置き方などを、ご利用者様の様子や状態に合わせて工夫しています。また、気の合ったご利用者様同士お部屋で一緒にお茶をする時間などを作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や愛用品、ご家族の写真など持ってきていただき、居心地良く暮らせるように工夫しています。また、テレビなども要望があれば持ってきていただいています。	家族の写真やテレビ、枕や毛布、タオルケットなど使い慣れた馴染みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう配慮している。職員は毎日の清掃や換気に心掛け、各居室に設置している温湿度計により空調管理を担っている。布団の整理やモップ掛けを手伝う利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、手すりなどを利用して、声かけ、見守りをしながら自立した生活が送れるように支援しています。リビング、居室全てに危険な物は置かないように、また、整理整頓にも気を配っています。		